

2019年8月6日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

海外動向を踏まえた情報発信について

○ これまでの経緯

- 2018年度第2回 SPARC Japan 運営委員会において、注目すべき学術情報流通に係る海外動向として Plan S を取上げて、日本の学術コミュニティが理解を深めるための情報や課題等を提供することが提案された。
- 2019年1月より武田委員長と林委員を中心に、発信対象を海外研究者と共同研究に取り組む国内研究者と設定して、Plan S 及びそのガイダンスの和訳及び今後国内ステークホルダーに関わりのある課題を整理する作業を行った。それらは3月27日に、SPARC Japan の web サイト「学術情報流通に関する国内外の動向」で公開した。
- 2018年度第3回 SPARC Japan 運営委員会において、Plan S の他にもハゲタカジャーナルや Sci-Hub 等の問題があることから、オープンアクセスを中心とした学術情報流通の動向について研究者が今知っておくべきことを、注意喚起といった形で情報提供していくことが提案された。

○ 今後の発信に向けた検討事項

- 扱うべきトピック
 - 既にハゲタカジャーナルや Sci-Hub が候補として提案されているが、2019年度に情報提供を行うトピックを何にするか。
- 公開手段
 - 今後は、News Letter に掲載してはどうか。現在 News Letter は1年間で3回程度発行し、セミナーの開催報告を中心とした記事を掲載している。この発行のいずれかに合わせて情報を整理・提供する。
(理由)
本取組の専用 web サイトを作成、維持しようとする、ある時点で公開した情報を引き続きフォローアップする必要が生じる。その作業も重要ではあるものの、新しいトピックに取り掛かりつつ、既存のトピックの情報更新を継続するのは、負担が大きいと考える。News Letter に掲載すれば、その発行を以って一旦あるトピックについて情報発信を終了することができ、本取組の継続性の観点から良いと考える。
- 執筆体制
 - 事務局が情報を整理しつつ、委員に執筆、監修をしていただくのはどうか。
- スケジュール (2019年度)
 - 第1回学術情報流通推進委員会にてテーマ及び執筆者を決定後、2019年内の原稿完成を目指す。
- その他
 - 2018年度に試行した「Plan S」については、今なお実施に向けた検討が続いている。今後、それらの動向について既存の情報をどのように更新するべきか。